

宮崎県感染症週報

宮崎県健康増進課感染症対策室・宮崎県衛生環境研究所

宮崎県第32週の発生動向

全数報告の感染症 (32週までに新たに届出のあったもの)

1 類感染症：報告なし。2 類感染症：結核 5 例。3 類感染症：報告なし。4 類感染症：報告なし。
5 類感染症：報告なし。

	疾患名	報告保健所	年齢群	性別	病型・類型	症状等
2類	結核	宮崎市	30歳代	男	無症状病原体保有者	-
			70歳代	男	肺結核	咳、痰、発熱
			80歳代	女	肺結核	症状なし
		高鍋	50歳代	男	肺結核	発熱
			80歳代	男	疑似症患者	発熱

定点把握の対象となる5類感染症

・定点医療機関からの報告総数は 565 人 (定点当たり 18.1) で、前週比 89%と減少した。前週に比べ増加した主な疾患は RS ウイルス感染症と咽頭結膜熱で、減少した主な疾患は感染性胃腸炎とヘルパンギーナであった。

★インフルエンザ・小児科定点からの報告★

【流行性耳下腺炎】

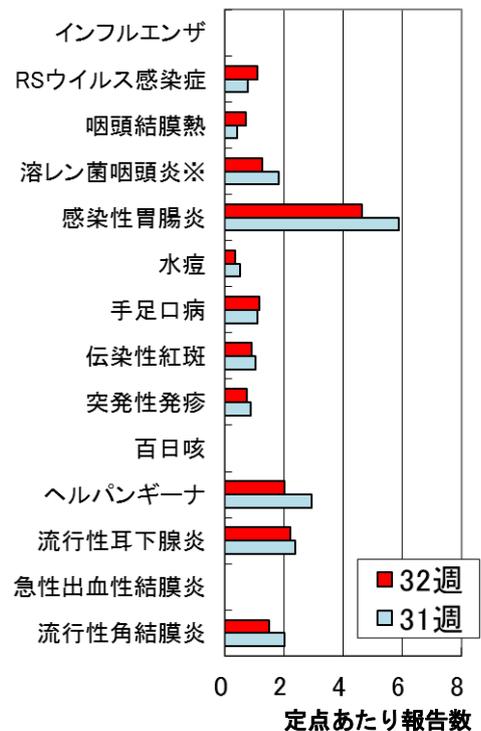
報告数は 80 人 (2.2) で、前週比 93%と減少した。例年同時期の定点当たり平均値* (0.72) の約 3.1 倍であった。延岡、日向 (各 5.3)、高千穂 (5.0) 保健所からの報告が多く、年齢別は 3~5 歳が約半数を占めた。

【咽頭結膜熱】

報告数は 26 人 (0.72) で、前週比 173%と増加した。例年同時期の定点当たり平均値* (0.92) の約 0.8 倍であった。日南 (3.3)、高千穂 (2.0)、延岡 (1.8) 保健所からの報告が多く、すべて 7 歳以下であった (別グラフに示す)。

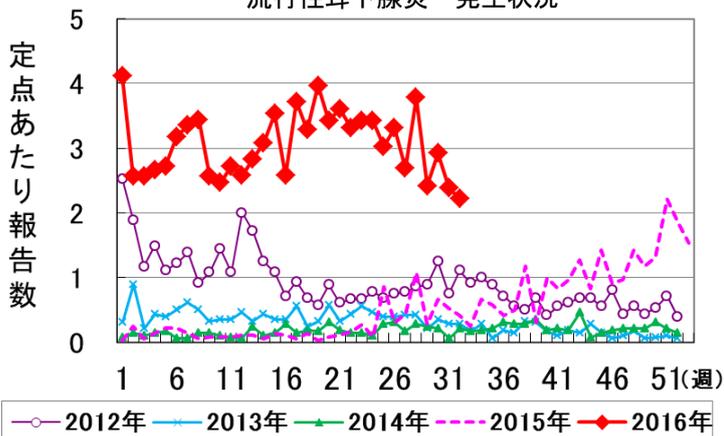
* 過去 5 年間の当該週、前週、後週 (計 15 週) の平均値

《前週との比較》

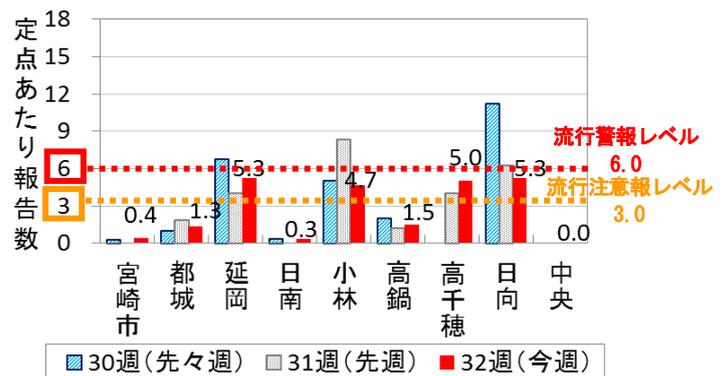


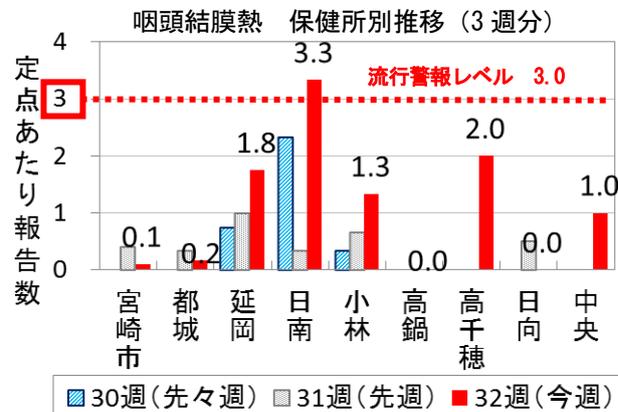
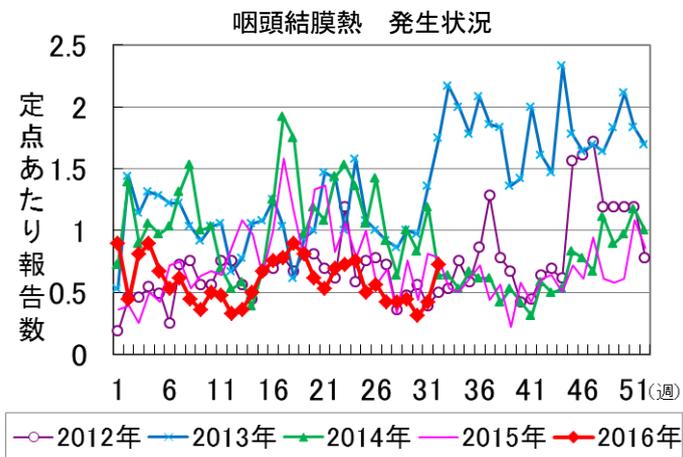
※ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

流行性耳下腺炎 発生状況



流行性耳下腺炎 保健所別推移 (3週分)





★基幹定点からの報告★

○マイコプラズマ肺炎：宮崎市(7例)、日向(2例)、延岡(1例)保健所から報告があった。0～4歳が4例、5～9歳が3例、10歳代が2例、30歳代が1例であった。

★保健所別 流行警報・注意報レベル基準値超過疾患★

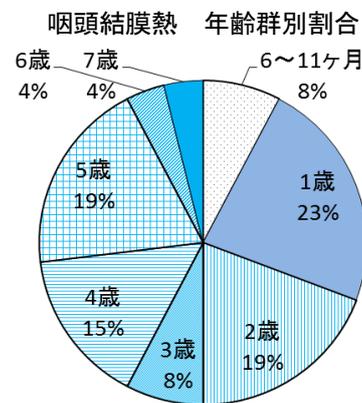
保健所名	流行警報・注意報レベル基準値超過疾患
宮崎市	なし
都城	なし
延岡	流行性耳下腺炎(5.3)
日南	咽頭結膜熱(3.3)
小林	流行性耳下腺炎(4.7)
高鍋	伝染性紅斑(3.0)
高千穂	流行性耳下腺炎(5.0)
日向	流行性耳下腺炎(5.3)
中央	なし

*流行警報レベル

- ・咽頭結膜熱(3.0)
- ・伝染性紅斑(2.0)

流行注意報レベル基準値

- ・流行性耳下腺炎(3.0)



□病原体検出情報（衛生環境研究所微生物部 平成28年8月15日までに検出）

★細菌

同定細菌名	年齢	性別	採取月日	臨床症状等	検出材料	同定日
ETEC(OUT:H4)	-	女	2016.7.19	-	便	2016.7.22
Salmonella Braenderup (O7:e,h:e,n,z15)	10歳代	男	2016.7.28	-	便	2016.8.4
EHEC(O1:H7 VT1)	30歳代	男	2016.7.24	症状なし	便	2016.8.4

○30代前半の男性から、腸管出血性大腸菌（EHEC）O1:H7が検出された。この菌株は、選択剤を加えた培地や合成基質培地では増殖が見られず、DHL寒天培地でのみ検出することが出来た。EHEC感染が疑われる場合には、選択性の高い培地と併用して、DHLなどの一般的な大腸菌分離培地からも釣菌し、VT遺伝子またはVTを調べる必要がある。

★ウイルス

同定ウイルス名	年齢	性別	採取日	臨床症状	材料	検出日
パレコウイルス1型	0～4歳	女	2016.06.13	急性脳症、40℃、上気道炎(咽頭炎)、意識障害、脳症	便	2016.08.03
パレコウイルス3型	0～4歳	女	2016.06.07	不明の発疹症、39.8℃、発疹(紅斑)	咽頭ぬぐい液	2016.08.03
パレコウイルス3型	0～4歳	女	2016.06.09	新生児発熱、40.0℃	咽頭ぬぐい液	2016.08.03
パレコウイルス3型	0～4歳	男	2016.06.09	不明の発疹症、39.2℃、発疹(丘疹)	咽頭ぬぐい液	2016.08.03
パレコウイルス3型	0～4歳	女	2016.06.14	不明の発疹症、38.4℃、発疹(紅斑)	咽頭ぬぐい液	2016.08.12
パレコウイルス3型	0～4歳	女	2016.06.16	ウイルス性発疹、発疹	咽頭ぬぐい液	2016.08.12
パレコウイルス3型	0～4歳	男	2016.06.17	不明の発疹症、37.3℃、粟粒淡紅斑	咽頭ぬぐい液	2016.08.12
パルボウイルスB19 ライノウイルス	0～4歳	男	2016.06.20	伝染性紅斑	咽頭ぬぐい液	2016.08.09 2016.07.28
ムンプスウイルス	0～4歳	男	2016.07.15	髄膜脳炎、40.0℃、髄膜炎、意識障害、脳炎、けいれん	髄液	2016.08.10
単純ヘルペスウイルス1型	10歳代	女	2016.07.19	ヘルペス口内炎、38.2℃、口内炎	咽頭ぬぐい液	2016.08.12
コクサッキーウイルスB5型	0～4歳	女	2016.07.28 2016.07.29	髄膜炎、39.0℃	咽頭ぬぐい液 便	2016.08.15

○乳幼児6名からパレコウイルス3型が検出され、幼児1名からパレコウイルス1型が検出された。
 ○幼児1名からムンプスウイルスが検出された。ムンプスウイルスは流行性耳下腺炎の起因ウイルスとして知られているが、今回、髄膜炎の患者から検出された。流行性耳下腺炎で最も多い合併症が髄膜炎であり、その他、髄膜脳炎、睾丸炎、卵巣炎、難聴、膝炎などを引き起こす場合もある。また、ムンプスウイルスは感染力が強く、飛沫感染や接触感染で伝播するため、感染予防策としてマスクの着用や手洗い・うがいの徹底が重要となる。

○髄膜炎の患者からコクサッキーB5型が検出された。国立感染症研究所の統計によると、今年に入り、無菌性髄膜炎の患者から検出されたウイルスとしてコクサッキーB5型が最も多くなっている。また、先に述べたムンプスウイルスによる髄膜炎も増加傾向にあることから、今後の動向に注意が必要である。

🇯🇵 全国 2016 年第 31 週の発生動向

□ 全数報告の感染症（全国第 31 週）

1類感染症	報告なし					
2類感染症	結核	355 例				
3類感染症	細菌性赤痢	4 例	腸管出血性大腸菌感染症	145 例	腸チフス	1 例
4類感染症	E型肝炎	4 例	A型肝炎	6 例	回帰熱	1 例
	重症熱性血小板減少症候群	2 例	チクングニア熱	1 例	つつが虫病	2 例
	デング熱	7 例	日本紅斑熱	2 例	ブルセラ症	1 例
	マラリア	1 例	ライム病	1 例	レジオネラ症	24 例
	レプトスピラ症	1 例				
5類感染症	アメーバ赤痢	16 例	ウイルス性肝炎	2 例	カルバペネム耐性腸内細菌感染症	21 例
	急性脳炎	6 例	クロイツフェルト・ヤコブ病	2 例	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	3 例
	後天性免疫不全症候群	20 例	ジアルジア症	1 例	侵襲性インフルエンザ菌感染症	1 例
	侵襲性肺炎球菌感染症	27 例	水痘（入院例）	1 例	梅毒	60 例
	播種性クリプトコックス症	1 例	破傷風	1 例	麻しん	1 例

□ 定点把握の対象となる 5 類感染症

定点医療機関当たりの患者報告総数は前週比 94%と減少した。前週と比較して増加した主な疾患はRS ウイルス感染症と手足口病であった。減少した主な疾患はA群溶血性レンサ球菌咽頭炎とヘルパンギーナであった。

流行性耳下腺炎の報告数は3,682人(1.2)で前週比89%と減少した。例年同時期の定点当たり平均値*(0.49)の約2.4倍であった。新潟県(2.6)、鹿児島県(2.5)、宮崎県(2.4)からの報告が多く、年齢別では4~6歳が全体の約4割を占めた。

マイコプラズマ肺炎の報告数は438人(0.93)で前週比93%と減少した。例年同時期の定点当たり平均値*(0.52)の約1.8倍であった。岐阜県(3.2)、福岡県(2.3)、大分県(2.0)からの報告が多く、年齢別では10歳未満が全体の約6割を占めた。

* 過去5年間の当該週、前週、後週（計15週）の平均値

📊 月報告対象疾患の発生動向 <2016年7月>

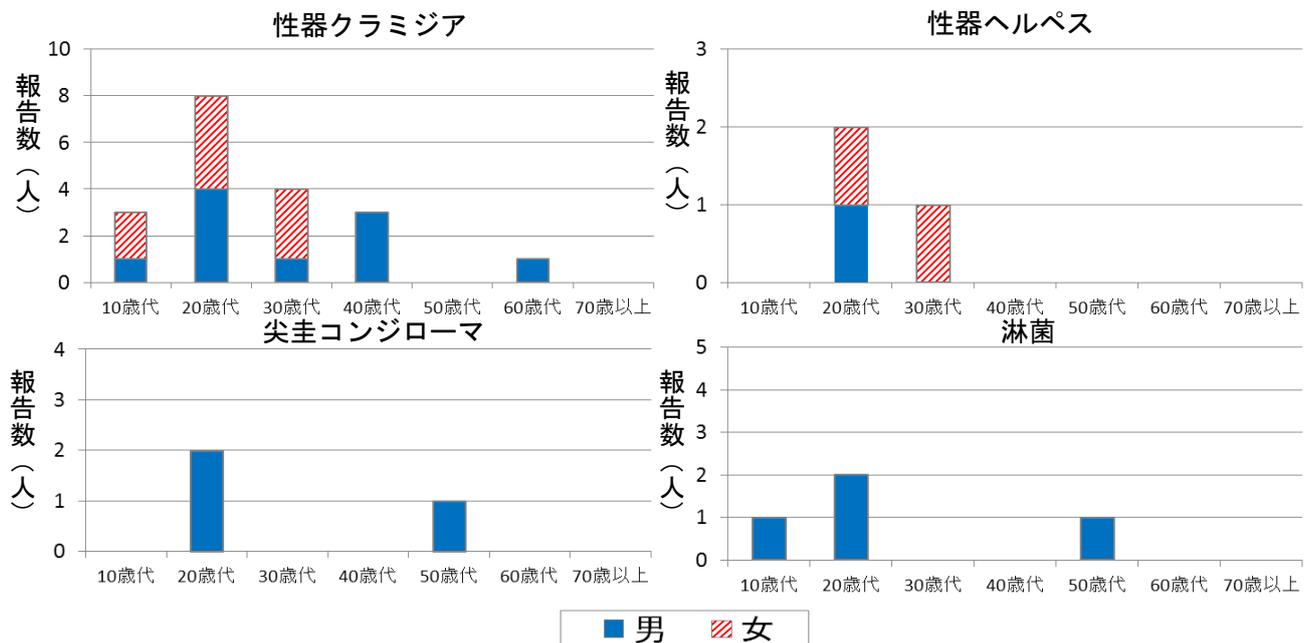
□性感染症

【宮崎県】 定点医療機関総数：13

定点医療機関からの報告総数は29人(2.2)で、前月(2.8)の約0.8倍、昨年7月(3.5)の約0.6倍であった。

《疾患別》

- 性器クラミジア感染症：報告数19人(1.5)で、前月(1.5)の約1.0倍、昨年7月(2.2)の約0.7倍であった。20歳代が全体の約4割を占めた。(男性10人・女性9人)
- 性器ヘルペスウイルス感染症：報告数3人(0.23)で、前月(0.38)の約0.6倍、昨年7月(0.31)の約0.7倍であった。(男性1人・女性2人)
- 尖圭コンジローマ：報告数3人(0.23)で、前月(0.23)の1.0倍であった。昨年7月(0.15)の約1.5倍であった。(男性3人)
- 淋菌感染症：報告数4人(0.31)で、前月(0.62)の0.5倍、昨年7月(0.85)の約0.4倍であった。(男性4人)



【全国】 定点医療機関総数：985

定点医療機関からの報告総数は4,129人(4.2)で、前月比で101%とほぼ横ばいであった。疾患別報告数は、性器クラミジア感染症2,101人(2.1)で前月比98%、性器ヘルペスウイルス感染症827人(0.84)で前月比102%、尖圭コンジローマ524人(0.53)で前月比110%、淋菌感染症677人(0.69)で前月比105%であった。

□薬剤耐性菌

【宮崎県】 定点医療機関総数：7

定点医療機関からの報告総数は19人(2.7)で前月比79%と減少した。また昨年7月(3.6)の約0.8倍であった。

《疾患別》

- メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症：報告数19人(2.7)で、前月の約0.8倍、昨年7月(3.4)の約0.8倍であった。70歳以上が全体の約4割を占めた。
- ペニシリン耐性肺炎球菌感染症：報告なし。
- 薬剤耐性緑膿菌感染症：報告なし。

【全国】 定点医療機関総数：471

定点医療機関からの報告総数は1,420人(3.0)で、前月比97%とほぼ横ばいであった。疾患別報告数は、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症1,265人(2.7)で前月比99%、ペニシリン耐性肺炎球菌感染症145人(0.31)で前月比86%、薬剤耐性緑膿菌感染症10人(0.02)で前月比67%であった。

宮崎県 感染症情報

(72定点医療機関)

2016年 第32週(8月8日～8月14日)

疾病名		第31週	第32週	宮崎市	都城	延岡	日南	小林	高鍋	高千穂	日向	中央
インフルエンザ	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
RSウイルス 感染症	報告数	28	40	16	3	5	8		6		2	
	定点あたり	0.78	1.11	1.60	0.50	1.25	2.67	0.00	1.50	0.00	0.50	0.00
咽頭結膜熱	報告数	15	26	1	1	7	10	4		2		1
	定点あたり	0.42	0.72	0.10	0.17	1.75	3.33	1.33	0.00	2.00	0.00	1.00
A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎	報告数	66	46	12	5	2	5		13	2	6	1
	定点あたり	1.83	1.28	1.20	0.83	0.50	1.67	0.00	3.25	2.00	1.50	1.00
感染性胃腸炎	報告数	211	167	42	31	4	22	29	13	1	17	8
	定点あたり	5.86	4.64	4.20	5.17	1.00	7.33	9.67	3.25	1.00	4.25	8.00
水痘	報告数	18	12	4	4	2		1	1			
	定点あたり	0.50	0.33	0.40	0.67	0.50	0.00	0.33	0.25	0.00	0.00	0.00
手足口病	報告数	39	42	10	4	12	3			1	12	
	定点あたり	1.08	1.17	1.00	0.67	3.00	1.00	0.00	0.00	1.00	3.00	0.00
伝染性紅斑	報告数	37	33	5	2	6	3	2	12		3	
	定点あたり	1.03	0.92	0.50	0.33	1.50	1.00	0.67	3.00	0.00	0.75	0.00
突発性発しん	報告数	31	27	6	2	4	5	2	4		2	2
	定点あたり	0.86	0.75	0.60	0.33	1.00	1.67	0.67	1.00	0.00	0.50	2.00
百日咳	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
ヘルパンギーナ	報告数	105	73	8	15	14	12	2	8		12	2
	定点あたり	2.92	2.03	0.80	2.50	3.50	4.00	0.67	2.00	0.00	3.00	2.00
流行性耳下腺炎	報告数	86	80	4	8	21	1	14	6	5	21	
	定点あたり	2.39	2.22	0.40	1.33	5.25	0.33	4.67	1.50	5.00	5.25	0.00
急性出血性結膜炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00						
流行性角結膜炎	報告数	12	9	7	2							
	定点あたり	2.00	1.50	2.33	1.00	0.00						
細菌性髄膜炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
無菌性髄膜炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
マイコプラズマ 肺炎	報告数	4	10	7		1					2	
	定点あたり	0.57	1.43	7.00	0.00	1.00	0.00	0.00	0.00		2.00	
クラミジア肺炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	

インフルエンザ定点:59、小児科定点:36(インフルエンザ定点を兼ねる)、眼科定点:6、基幹定点:7

上段:報告数
下段:定点あたり報告数

●全数把握対象疾患累積報告数(2016年第1週～32週)

2類感染症	結核	127例(5)				
3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	10例				
4類感染症	E型肝炎	2例	A型肝炎	3例	重症熱性血小板減少症候群	6例
	つつが虫病	6例	日本紅斑熱	3例	レジオネラ症	1例
5類感染症	アメーバ赤痢	11例	ウイルス性肝炎	2例	カルバペネム耐性腸内細菌感染症	3例
	急性脳炎	8例	クロイツフェルト・ヤコブ病	1例	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1例
	後天性免疫不全症候群	4例	侵襲性インフルエンザ菌感染症	3例	侵襲性肺炎球菌感染症	5例
	水痘(入院例)	1例	梅毒	5例	播種性クリプトコックス症	3例
	破傷風	1例				

()内は今週届出分、再掲